

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 第1回文化芸術推進審議会
開 催 日 時	令和6年8月6日(火) 午後 2時30分から 午後 4時15分まで
開 催 場 所	吉川市役所 2階201会議室
出席委員(者)氏名	廣瀬正子委員、小松弥生委員、渡辺弘委員、高田明充委員 金澤美智子委員
欠席委員(者)氏名	
担当課職員職氏名	生涯学習課 岩上勉課長、山崎功二主幹、川島和也主査 尾花香穂主事
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<p>《会議次第》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 委嘱式</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 開会</li> <li>4 自己紹介</li> <li>5 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 正副会長の選出について</li> <li>(2) 吉川市文化芸術推進基本計画の進行状況の点検・評価について</li> </ol> </li> <li>6 閉会</li> </ol> <p>《公開又は非公開の別》 公開</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	<p>次第</p> <p>文化芸術推進審議会名簿</p> <p>令和5年度文化芸術事業実績報告書</p> <p>令和5年度吉川市市民意識調査報告書(抜粋)</p> <p>吉川市文化芸術推進基本計画</p> <p>令和5年吉川市の文化財企画展～小学校創立150周年記念小学</p>

	校のはじまりと校歌～ 広報よしかわ7月号
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	廣瀬正子委員、小松弥生委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p><b>1 委嘱式</b></p> <p><b>2 教育長あいさつ</b> あいさつ後、教育長退席。</p> <p><b>3 開会</b></p> <p><b>4 自己紹介</b></p> <p><b>5 議事</b> 会議録署名委員の指名について、廣瀬委員、小松委員を指名。</p> <p>(1) 正副会長の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立候補・推薦なし</li> <li>・事務局案提示 会長に高田委員、副会長に渡辺委員</li> <li>・全員一致で事務局案賛成</li> </ul> <p>(2) 吉川市文化芸術推進基本計画の進行状況の点検・評価について</p> <p>高田会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を求める。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき事業実績の説明及び計画の目標値に対する現状値を報告。</li> </ul> <p>小松委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料にある市民意識調査は抜粋だと思うが、何人くらい回答されているか。調査の前提があると良い。</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術推進基本計画の進捗状況を示すために、該当部分を抜粋したが</li> </ul>

	<p>資料として不十分であった。今後は気を付けたい。なお、市民意識調査の結果は市のホームページに掲載されている。</p>
高田会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認であるが、市民意識調査はホームページに掲載されているのか。</li> <li>・市民意識調査結果報告として、ホームページに掲載されている。</li> </ul>
金澤委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画の後ろに掲載されているアンケートとは別のものであるか。</li> <li>・市民意識調査は基本計画の後半にあるアンケートとは別のものである。基本計画のアンケートは、計画策定にあたりスポット的に行ったアンケートで、市民意識調査は毎年行っているものである。</li> </ul>
廣瀬委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査期間が令和5年6月から7月で、1,500人を対象に調査したものとなっている。</li> <li>・調査の実施時期が6月から7月のため、令和4年度の事業に対する評価と捉えた方が良いかもしれない。</li> </ul>
小松委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページのトップページから市民意識調査結果のページにはどのように進めば良いか。</li> <li>・トップページから、「市政情報」、カテゴリー「統計・調査」という順に進んでいただく。</li> </ul>
小松委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何でも載せないといけないという事情はあると思うが、なかなか必要な情報に辿り着けない。この市民意識調査は、芸術文化に限らないものであるか。</li> <li>・文化芸術に限らず、全般的な統計調査である。</li> </ul>
廣瀬委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意識調査の不満の理由を見ると、気がないという回答になるのだなと感じた。「知る機会がそもそもない」、「やりたい人だけがやっている」、「興味がない」といった回答が散見されるが、元々の意識の違いがあるので、一定数は仕方ないのかなと思う。</li> <li>・自分自身が体験する機会など、興味を持つようなきっかけがあれば、底上げが図られるのだと思う。市としても、新しい方に参加してもらえるように取り組んでいるが、きっかけをどう創出するかという部分で、皆様に取り組んでいる事例などを踏まえ、ご意見を頂ければありがたい。</li> </ul>
金澤委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬委員と同様、市民意識調査の不満の理由は引っかけだった。しかし、これについては、あまり気にしなくて良いと思っている。何に対しても一定数好きな人はおり、全く興味がない人もいる。これが、例えばスポーツのアンケートだとしても、同様の結果が出るのだろうと思う。</li> <li>・金澤委員のおっしゃるように、興味がない方にも興味を持ってもらえることは理想であるが難しい。興味がある方の満足度を高めていくことから始めるのが良いのだと思う。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が分からないと回答している方々に、いかに情報を届けるか。また、</li> </ul>

事務局	<p>興味を引くような届け方ができるかが大事だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意識調査の必要な取り組みを見ると、「有料でも、行きたいと思うようなコンサートや展覧会などを開催する」が最も割合が高い。何か1つでも興味を引くようなイベントを行い、それをきっかけに、自分がやってみようと思うところまで繋げられれば良いと感じている。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館で案内をすることで、公民館に来るのは元から文化芸術に興味がある方々である。そういう場に来ない人達にどう情報を届けるかを考える必要がある。ホームページも、「探せば見つかる」ではなく、「開くと目につく」ような作り方ができると良い。</li> <li>・前にも言ったことがあるが、駅構内にポスターなどを掲示して、駅を通る人が必ず目にするということができると良い。イオンタウン吉川美南のフリースペース活用の意見も出ているが、利用可能なものは利用させてもらおうと良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高田会長からご意見があった駅を活用した周知について、吉川美南駅の自由通路は市の管理になっており、大きいポスターを掲示することができる。今回も演劇や市展など、当課の事業の周知のために多くのスペースを使わせてもらっている。現状では、吉川駅の方が中心ではあるが、吉川美南駅周辺の区画整理が進んでくると、吉川美南駅利用者が増えてくるので、周知の効果が上がってくるのかと思う。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川美南駅に関しては当初、駅長が市との関わりに消極的であったが、駅長が変わってからはJRが広告を掲示する場所の利用についても協力的になった。吉川駅は吉川美南駅の駅長の管轄になっているので、相談してみても良いだろう。また、吉川駅にパンフレットを入れるラックがあるが、吉川市の広報物よりも松伏町の広報物の方が入っている。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日、駅を降りたときに見たが、松伏町ではコンサートなどを色々開催しているようであった。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の演劇では、市内のコンビニやスーパーに対して、ポスター掲示の依頼を行うなど、新たな取り組みも行っているが、駅に対してはアプローチしていなかった。駅のスペースについて、現況確認したうえで使い方を検討していきたい。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗訪問の窓口はどこになるのか。商工課を介して行うのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習課が直接店舗を訪問して依頼をした。また、今回の演劇に関しては、演劇公演で完結せずに、地域事業者との連携を模索している。その取り組みに関しては、事前に商工会で説明を行ったうえで、店舗訪問を行った。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前、吉川東口開発の会議に、埼玉りそな銀行の支店長も参加されてい</li> </ul>

事務局	<p>たが、銀行なども協力してくれるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターの掲示に関しては、コンビニ、スーパーだけでなく、埼玉りそな銀行や郵便局にもお願いに伺った。受け取ってもらえたが、最終的には責任者の判断ということであった。他の店舗も含め、やれる範囲でポスター掲示などについては協力いただいている。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>八坂祭りをやるとなれば、町を盛り上げようと各店舗も協力体制を取っているので、お願いしてみると協力してくれる方々もいるだろう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、初めて店舗訪問を行ったが、意外に協力していただけたという印象であった。集客につながるかは分からないが、事業者と繋がれたという部分は成果だと考えている。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほかには、個人対個人の付き合いの中で依頼をして、マンションに置かせてもらっている事例がある。サイズが大きいものは難しいが、A4サイズくらいなら許可してもらえらる可能性がある。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>そこは自治会の関係もあると思うが、市民参加推進課と協力して、自治会が動いてくれると効果的な宣伝ができると思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報を行う場所について、色々のご意見をいただき感謝する。より効果がありそうな場所などについて検討していきたい。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前、文化連盟のイベントで、越谷市民会館にチラシを配架してもらった。A4サイズであれば対応してもらえらる。ほかには、三郷市文化会館もA4サイズは置いてくれる。松伏町も教育委員会へ依頼すると快く受け取ってくれる。近隣自治体での広報もやってみると良い。過去に文化連盟が開催した文化芸術祭について、チラシを見た松伏町の議員の方が来たこともある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>他自治体への協力依頼について、現状では実施していない。他自治体の担当者との会議体もあるので、依頼することが可能であるか話を聞いてみたい。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントで来場者にアンケートを取るが、これは来場した方の回答であって、新たな来場者を増やすことについては、あらゆる媒体を使って周知し、何か1つにでも引っ掛かればという意識で、根気強く取り組むしかないだろう。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>美南地区にお住まいの方などは、公民館があることすら知らない方もいる。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>そのような方は地域をあまり見ていないのだろう。何かに忙しく、住んでいる地区の掲示板や広報誌などを見る気がなく、目に入ったとしてもそのまま流れてしまう。自分がアトリエを開いていて感じるのは、大抵の方はホームページを見てくるか、子育てのイベントで講師として参加</li> </ul>

渡辺副会長	<p>すると、そのイベントが面白かったということで連絡をもらうことが多い。子育て世代を呼びたいのであれば、体験型イベントを開催し、そこから繋げていくというのが効果的だと思う。可能であれば、美味しいものが食べられるイベント、市民まつりなどは人が集まるので、その一角に体験ブースを設けることも考えられる。お得感があると、若い保護者の方は参加してくれる。先日のレトロ横丁も多くの方が来ていたが、一角で誰かが歌い始めたら、人が集まり、それを機にチラシを配るということも出来たかもしれない。祭りと連動する、体験型から繋げていくということが出来たらよい。掲示物だけでは難しいと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員の皆様が発言は、全国に共通しているものだと思う。本当に呼ぼうと思ったら、子ども達、学校を巻き込むことが最もチケット販売に繋がるし、あとは細かく商店街を回るなど、人で対応していくしかない。情報が溢れすぎているので、駅での広報も流れていってしまうだろう。子ども達が反応したものには、親も反応する。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>やはり子どもが絡むということが肝要だろう。子どもが興味あるものに対しては、保護者も費用や時間を工面してやらせてあげたいと思うのだと感じる。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>あとは、高齢者の皆様のネットワークだが、年齢が上の方は口コミで広がっていきやすい。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が来たところにシニアの方々も居てほしい。普段接点がないので、シニアの方々の活動を見せたい、そこに連れていきたいというような仕掛けがあると良い。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>先日、合唱祭を開催したときに、ゲストで吹奏楽団に入ってもらった。合唱は分からないが、吹奏楽に関心がある方が来てくれ、普段と違う客層となって良かった。合唱も頭打ち、吹奏楽も頭打ちになっているので、連携したことは良かった。吹奏楽を聞きに来た方が、合唱に触れて、「合唱も良いな」と感じ、またその逆もあり、相乗効果があったように思う。合唱連盟に対しては、しばらくの間、一緒にやってみたらどうかと提案している。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>娘が吹奏楽団に混ぜてもらっており、中学生も参加していたと思う。子どもの参加を歓迎し、他の団体とのコラボレーションなどをやっていけば客層が増える。たまたま隣に座られた方が、「合唱を始めたいが、どのような団体があるか分からないので来てみた」と言っていた。その方は、吹奏楽のチラシで情報を得たとのことだったので、コラボレーションは効果的だと思う。</li> </ul>
高田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>先日、中川台のお祭りがあった。中川台は少し前まで高齢化率が市内で</li> </ul>

事務局	<p>一番高かった。地区の子どもの集団登校は6人であるが、お祭りに参加している子どもは20～30人はいたと思う。友達同士で誘い合っただのか、親同士の口コミで遊びに来たのかは分からないが、宣伝によって客層が変わるといえるのは大事だと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の演劇では小中学生向けの無料公演を行い、そこで観覧して関心が生まれ、今年度に参加された方がいる。また、昨年度に参加された方が、今年度は姉妹で参加してくれている。子どもを巻き込むことで、繋がってきたのだと感じている。気軽に参加できるイベントは現時点ではない部分である。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向けに夏休み陶芸教室をやっているが、20人の定員に対し、32人の応募があった。子どもの申し込みは、2～3人での申し込みが多い。1人で申し込むことはほとんどない。仲間で参加したくなるような告知の仕方も大事だろう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の裾野を広げるという部分で、ご意見を参考にさせていただきたいと思う。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇で「集客を増やす方策について検討する必要がある」とあるが、実際にはどのような状況なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年度は有料公演で全3回の上演で来場者が約300人であった。昨年度は全4回の上演で来場者が約400人であり、総数は増えているが、平均すると各回100名で、無料だから多くの方が来場したかということ、大きな差はなかった。集客については、これをやればという方策があるものではないので、地道に宣伝を行い、見てもらって楽しければ次につながっていくと思う。今年度は、高校生以下の方への割引チケットなどを導入し、少しでも来場してもらえるように取り組んでいる。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は無料ではないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元々有料で行っている事業であり、今年度は有料公演である。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そこが毎年違うのはあまり良くない気がする。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は、一昨年度のアンケートでのご意見などを踏まえ、無料公演を試行的に実施した。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本来は、アンケートに書かれたからそれに合わせるというのはおかしいと思う。こういう姿勢でやりますということが続けていかないと、昨年度は無料だったのに、なぜ今年度は有料なのだろうと、納得感が得られにくい。また、ゲネプロをなぜ見せないといけないのか。加えて、ゲネプロに3,000円も取るのもどうなのかと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲネプロ自体は、関係者などのための最終リハーサルと認識しているが、今年は演劇公演をプロデュースしている団体との打合せで、公開ゲネプ</li> </ul>

渡辺副会長	<p>ロにし、料金を設定することになった。あくまでもゲネプロなので、どちらかと言うと、週末に来られないといった需要を受け止めるために公開にするという流れになった。チラシだけでは意図が伝わらないと思うが、そのような意図で実施している。</p>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういうことであればプレビューと表現した方が良いだろう。もう少し考え方を整理した方が良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チケットの購入ルールが分かりにくい。子どもがチラシを持ち帰ってきたので、ネットで買おうとしたら、吉川割や学割はネットでは買えなかった。そのため、おあしすに行ったが、おあしすでは学割が購入できず、生涯学習課を案内され、そこで学生証が必要だと分かった。価格の区分はどちらかに統一した方が良かったと思う。また、割引チケットを導入しても、生涯学習課まで購入しにくるだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チケット購入について補足させていただく。吉川割はおあしすと中央公民館でも購入できるが、学生や障がい者の割引チケットは購入できない。1,000円で購入できるチケットについて、出先機関では要件確認が難しいということで、生涯学習課だけで販売することとした。そこは改善が必要だと改めて感じている。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットで購入するのに吉川割の区分を追加することはできないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川割は、市内を訪れていただく機会の創出という意図もあった。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川市に住んでいる人が受けられる割引ではないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在勤・在学の方などは、市外の方でも割引の対象となりえる。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川割の意味が書いていないので、分からないのだと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川市に住んでいなくても、吉川市内の公共施設で吉川割のチケットは購入可能である。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市外に住んでいる人が、吉川市内に住んでいる人に頼んで吉川割のチケットを購入することもできるので、あまり意味がないように思う。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのような意図の割引チケットの例は今まで聞いたことがない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて割引チケットを導入することになり、やり方を検討する中で、単純に前売りと当日で区分するか、割引に意味づけができないかということ考えた結果、今回のように設定することにした。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川市を知ってもらうための演劇なのか、吉川市民に演劇に親しんで欲しいのかという部分がぼやけてしまっている。また、そもそもゲネという言葉も一般の人には分からない。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川割と一般の前売りの区分との違いも分かりにくい。なぜこのように差があるかと感じてしまう。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇公演は収入を上げなければいけないのか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入の目標は設定していないが、演劇の協定の中で、支出が収入を上回った部分について、300万円を上限に市が負担することとしているため、収入が増えれば市の支出を減らすことができる。そのため、歳入は多いに越したことがなく、どのような割引制度が良いか色々と考えて設定した。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金澤委員のおっしゃったように、何のための演劇か、何のための割引かを考えた方が良さそう。色々な割引制度を作ることによって販売する側も、購入する側もそれぞれに手間がかかり、総合的に考えると、色々な種類を作る必要があったのだろうかと思う。先ほどネット販売に区分を設ける話が出たが、オンラインでは色々な区分を作ると、その分手数料がかかる。工夫しようという意図は分かるが、限度があると思う。</li> </ul>
事務局 高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとシンプルで、買いやすい手法を検討したい。</li> <li>・コンビニ、観光センター、駅前サービスセンターで購入できるようにならないか。購入場所が市役所というのはいかがかと思う。</li> </ul>
金澤委員 廣瀬委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・娘が演劇を良く見に行くが、コンビニで買えないかと言っていた。</li> <li>・確かに市役所に購入しに行くという発想はあまりない。</li> <li>・コンビニで買えれば購入してくれる方はいらっしゃるだろうか。費用対効果の問題であり、売れる筋が立つのであれば検討する。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・量的に多いものであればともかく、年1回の公演で、そのように大きな流通に載せるのはどうかと思う。色々なところで手数料を取られてしまう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の規模がそれほど大きくないので、費用対効果の面で難しいだろうと思う。市役所での販売という部分については、もう少しアクセスしやすい施設で販売できるように考えたい。</li> </ul>
渡辺副会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校への周知は行っているか。</li> <li>・児童生徒に1枚ずつチラシを配布しているほか、保護者へのメール配信も行っている。</li> </ul>
渡辺副会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それであれば親子割などを導入しても良かったと思う。また、金額に見合う公演であれば良いが、当日チケット4,000円は高いという印象。</li> <li>・演劇公演をプロデュースしている団体との打合せの中で決定したものであるが、プロの方が出演する公演という意識があって、一般3,500円、当日4,000円という料金が決まり、そこから割引チケットの料金を調整するという流れであった。</li> </ul>
渡辺副会長 高田会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロの出演も多いように思う。もう少し市民が出た方が良く感じる。</li> <li>・現状の販売状況はどうか。</li> <li>・現時点では集計できていないが、割引チケットを取り扱う関係で、生涯</li> </ul>

金澤委員	<p>学習課に問い合わせが多い状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・料金の考え方は早めに整理した方が良い。昨年度に実施した無料公演というのはやはりどうかと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料公演を実施することで、翌年度以降に少なからず影響が出るかなという思いはあったが、市内の小中学生に観劇の機会を提供するという意図で対象を限定的に公演を行った。今年度は有料公演なので、子どもの料金をどうするかということを考え、割引チケットも導入したが、考えすぎてしまった部分もあると感じている。実際に販売してみて分かった部分もあるので、今後は改善を図っていきたい。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にやってみないと分からない部分もある。今年度は市展があり、第1回のときは負担金が1,000円だったが、第2回の今回は1,500円である。これを安いと感じる人もいれば、高いと感じる人もいて、人それぞれである。市民の皆さんがどのように受け取るかはやってみないと分からない部分もあるだろう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。今年度はすでに動いてしまっているので、次年度以降に向けて検討していきたい。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回に向けてという意味で、今回のアンケートの取り方も検討してみると良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どれくらいの価格帯であれば観覧したいと感じるかなど、踏み込んで聞いてみても良いかもしれない。また、チケット販売などに対する意見も聞いてみようと思う。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーカイブチケットは公演のあとに配信するのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・購入者にURLをお示ししてご覧いただく形である。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やはりチケットの種別が何通りもあると分かりにくい。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉川割というのが伝わりにくい原因なのだろう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少しシンプルな仕組みを考えたい。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨日、稽古見学に参加したが、市民の皆さん一生懸命やっているの、見に来てくれる方が少しでも多くなればと思う。</li> <li>・文藝よしかわの頒布数が課題という説明であったが、これも売れた方が良いということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館や学校には配布しているが、せっかく市民の方が創作されたものなので、市民の皆さんの目にも触れた方が良く考えており、頒布数は増えた方が良い。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館では貸出していなかったと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出はしていないため、館内で閲覧をしていただくことになる。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文藝よしかわも生涯学習課で購入するのか。</li> </ul>

事務局	・生涯学習課のほか、おあしすでも購入可能である。
金澤委員	・購入できる場所がおあしすと生涯学習課だと買いにくいと感じる。
小松委員	・文藝よしかわは1冊いくらであるか。
事務局	・1冊500円で販売している。
金澤委員	・文藝よしかわや吉川むかしばなしもそうだが、販売場所が市役所では買いにくい。
事務局	・具体的にはどこで販売するのが良いか。文藝よしかわは中央公民館でも販売している。
金澤委員	・理想は書店であるが、難しいということは承知している。
高田会長	・市民の方は、文藝よしかわを販売していることを知っているのか。
事務局	・文藝よしかわの販売については、ホームページと広報で周知している。
小松委員	・先程から見ているが、ホームページだと情報が探しにくい。演劇の情報にもなかなか辿り着けない。
金澤委員	・せめてイベントやお祭りのときなどに購入できると良いのではないか。
高田会長	・文化祭などであれば通じるものがあるが、市民まつりと文藝よしかわが結びつくだろうか。
事務局	・中央公民館でも販売しているので、文化祭に来られた方が中央公民館の窓口で購入することはできる。また、平時でも中央公民館で購入できる。
高田会長	・何かを購入するとき、市役所に結びつかない。ポスターに販売場所などを明示して、駅前サービスセンターでも購入できるなど、案内すれば購入に結びつくのではないか。地域性はあると思うが、市役所や中央公民館という二の足を踏んでしまうこともあると思う。
事務局	・文藝よしかわは各図書館にも送付しているので、そこで読んだという方が多い。販売ということに関して、買いにくいというご指摘をどのように解消していけるかは課題として捉えている。
小松委員	・売れ残りは在庫になっているということか。
事務局	・そのとおりである。
廣瀬委員	・各公民館などで、販売していることを明示してみてもどうか。特に、吉川むかしばなしは目を引くので、知らない人でも覗くことがあると思う。
小松委員	・何部くらい作成しているのか。
事務局	・500部作成している。500部のうち、300部くらいを掲載者への贈呈や図書館、小中学校などに配布している。
小松委員	・それほど在庫を抱えているという訳ではないということか。販売をやめて、作品をネットに載せるということを考えているか。
事務局	・埼玉文学賞などは受賞作をネットに掲載しているが、市としてはどのようなやり方が良いか考えたい。ホームページに関して情報を探しにくい

	<p>というご意見もあり、この点は生涯学習課だけで解決できるものではないので、ホームページを所管する部門にも共有したい。</p>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財に関して伺います。校歌を文化財に指定することについて、良い取り組みだと思うが、考え方として、校歌というものは何か。それは有形文化財か。校歌が書かれている額や楽譜などを有形文化財に指定されているが、歌というものをどのように捉えているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>市としては、有形文化財の歴史資料と捉えている。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうなると楽譜などになるが、歌というのは歌ってこそ歌であり、その点はどのように考えるのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>少しずれてしまうかもしれないが、吉川小学校の校歌に関しては明治27年に制定され、資料は明治29年に千家尊福が学校の新築祝いに贈ったことが記載されている。吉川小学校ではその歌詞が現在も変わらずに歌い継がれている。三輪野江小学校の校歌は2番目に古い校歌であるが、終戦の前年の昭和19年制定で、3番目の歌詞で「勇武」という部分が、昭和22年に三輪野江国民学校から三輪野江小学校に変わったときに、「勇氣」に変更されている。戦後の中で歌詞が変更されたということ資料から追うことができた。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞が変わっているというのも大事な点かと思う。例えば、建造物で言えば、壊れたら修理をし、用途が変更になっていたり、そのような変遷を含めて文化財としての価値だと思う。校歌も同様に、歌詞が変更され、メロディも変わっているかもしれない。そういうことも含めて大事だと思うが、有形ではなく、無形の部分をどう捉えるかということに興味がある。国の指定でも、歌は指定がない。映画は指定があるが、フィルムは指定がない。無形の資産をどう守っていくかは課題だと思っており、このように有形の部分を捉えることで、無形の部分の価値が伝わっていくというのは良いやり方だと感じた。そこをどう融合されているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>校歌は年齢を重ねても覚えているもので、校歌を通じて学校の風景や吉川市を思い起こすことができる。郷土愛という部分で校歌というのはキーになってくると考えている。一方で、残念ながら学校に残されている資料が少ないという状況がある。多くの児童生徒が育ち、先生や地域の方が関わる場所であるが、学校施設は資料を残す場所ではないため、資料が保存されていない。その中で、校歌を指定することによって、地域の思いや子どもへの思いを繋ぐことができる。小松委員のおっしゃった無形の部分については、今後さらに幅を広げて検討することができると考えているので、ご意見を参考に新たな展開として検討していきたい。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>これは現在も存在している学校か。</li> </ul>

事務局 小松委員 事務局 小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのとおりである。</li> <li>・吉川市は今後も人口が伸びていくのか。</li> <li>・今後も人口の増加を見込んでいる。</li> <li>・その状況であれば、学校の統廃合などは早々にはないと思うが、統廃合され、無くなる学校の校歌の保存は大事である。東日本大震災のときに、被害を受けた学校の校歌をオーケストラが演奏してCDに残すということをやった。先ほど事務局から発言があったように心の拠り所になる部分なので、是非このような取り組みで守ってほしい。</li> </ul>
高田会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年はおあしす祭りで何か展示を行うのか。</li> <li>・おあしす祭りとは日程を合わせて、市役所を会場に展示を行う予定である。日程を合わせることで、おあしす祭りの参加者を上手く取り込んでいけたらと考えている。</li> </ul>
渡辺副会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績報告書の14、15ページはどのような取り扱いか。</li> <li>・基本計画の中では、文化芸術を総合政策として推進することについての取り組み状況も報告事項となっている。ただし、昨年度の実績については、昨年度の審議会でも何度かお示ししているの、議論が重複してしまうということと、審議会では特に力を入れた継続的な事業についてご意見を頂戴するという方向性であったため、参考として資料のみを入れさせていただいた。何かご意見などがあればお伺いしたい。</li> </ul>
渡辺副会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ル ショコラ ドゥ アッシュ みんなの将来の夢 絵画コンテストはどうであったか。</li> <li>・昨年度の審議会でもご意見を頂戴した。子ども達はインセンティブがあることで、参加意欲につながるものが何かヒントになるだろうという内容であった。民間の方が柔軟な発想でやられていることについて、どのように上手く要素を取り組んでいくか、参考にしながら進められればと思う。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかに意見、質問はあるか。ないようなので進行を事務局へお返す。</li> </ul>
	<p><b>6 閉会</b> 副会長よりあいさつ</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和6年9月10日

署名委員 廣瀬 正子（自署）

署名委員 小松 弥生（自署）